災害派遣ボランティア

大船渡チーム

第2班　5月6日～5月15日

酪農学科3年　竹本　愛

角田直未

酪農学科2年　後藤真理子

生命環境学科2年　地主　結

獣医衛生　永幡　肇先生

大船渡の今・・・

活動内容

1班　遠野の拠点づくり

物資の仕分け作業

マッピング作業

2班　物資の仕分け作業

マッピング作業

社会福祉協議会への

活動報告

1日の流れ

6:20　朝食作り

おにぎりづくり

7:00　朝ごはん

8:00　出発

9:00　社会福祉協議会で受け付け、活動開始

避難所へ聞き取り調査

16:00　活動終了

18:00　帰宅。夕食作り。掃除

19:30　夕食

片付け

ミーティング

お風呂など

1:00　就寝

支援物資の仕分け作業　（大船渡教会にて）

被災者のニーズ

古着は要らない

冬物の洋服は要らない

（逆に置き場所に困る）

新しい下着類がほしい

善意でもらったものなので
捨てれない
↓
被災地以外でバザーなど開き、
寄付金に変える。

支援物資の仕分け作業

被災者のニーズ

避難所生活の人にはレトルトカレーなどは不人気

介護用紙おむつ・尿とりパット・紙おむつ・生理用品は需要あり

マッピングとは・・

各避難所をまわり代表者の方にお話しをうかがって、現状を把握する。

（5月13日現在32ヵ所）

大船渡市内の避難所の位置と現状が一目でわかるようなMAPを作成。

パソコンでエクセルに避難所の詳細な現状を項目ごとにまとめる。

避難所番号でエクセルと対応

エクセルの項目

①避難所番号
②調査班
③施設名
④住所
⑤代表者
⑥連絡先
⑦役職
⑧食事数
⑨食事
⑩ライフライン（電気・水道・ガス・固定電話）
⑪仮設住宅
⑫被災状況
⑬物資
⑭子どもの数
⑮その他
⑯調査日
⑰マップNo

マッピングとは・・・

目的：避難所の声やニーズを社会福祉協議会にとどけることよって、必要なところに必要な支援を行うため

初めて見る人が分かるように書く

事実と憶測は分ける！

240(避難者140＋食事支援100

大船渡市で最大の避難所。

・保健師や現在は大阪府警が常駐している。
・市の職員が運営。仕事が忙しいので、善意のボランティアのイベントに対応することができない。
・子供の娯楽施設はなく、本やスマートフォン、PCが　提供されたのでそれらを使って遊んでいる。
・子供たちの学習スペースには、図書館のエントランスを使用。
・お風呂は銭湯や自衛隊の入浴施設へのバスが毎日運行されており、毎日はいることができる

仲区公民館（越喜来）

本部によれば23人

・完全に自分たちで運営できている。
・ボランティア団体が何度も訪ねてくることが苦痛に感じる。
・必要があれば、こちらで要請する。
・仮設住宅になってからが不安。
・役員が交代で常駐。
・仮設住宅に入るさい食器が必要。
数は、7～8世帯分（一家族6～7人）分が必要。
・厨房があるため、三食自炊。
・被災していない部落の方からの野菜提供があり充足している。

猪川小学校（猪川町）

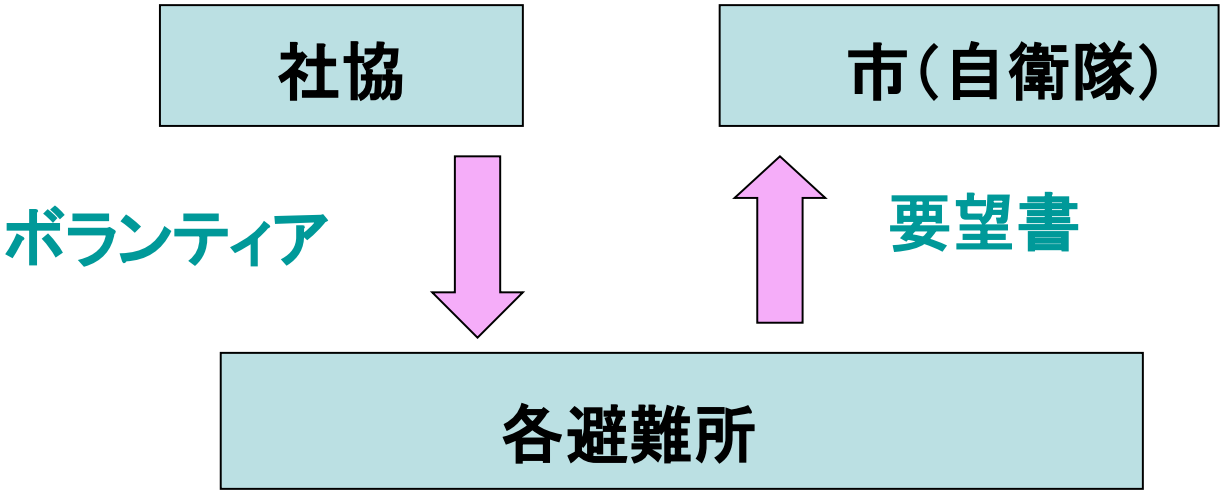
15(避難者13＋食事支援2)

・体育館内の簡易ガスコンロで調理している。
・夕食のみ自炊。
・高田の仮設には家電製品や調理器具は支給されていると聞いている。
・車を持っている人がいるので乗り合いをし、福祉の里センターで入浴している。
・体育館を避難所として使用しているため、子供達の遊ぶ場を無くしてしまっていることを気にしている。
・父親が福島原発で作業している子が転校してきている

マッピングから見えてきたもの

情報の共有・連携

市と社会福祉協議会の連携がうまく取れていない



いつまで物資の支援を続けるのか

物資の支援を長く続けると、地元経済の衰退につながるおそれ

マッピングから見えてきたもの　その2

人の欲求は限りない

どのレベルまで支援が必要か

食糧・布団・掃除機・耳掻き・爪切り・・・

何を目的とした支援が今必要か

避難所の運営の充実・避難所の生活の充実・避難所の人たちの自立

被災者を受け入れている家庭への支援は？

大船渡のこれから‥

避難所生活→仮設住宅

ニーズの変化。またその声を聞くことが重要。情報には賞味期限がある

緊急支援→復興へのシフト

仕事＝収入がほしい

長期のボランティアの必要性。

酪農学園大学の
緑のユニホームの意味

顔と顔の見える人との繋がりのある安心感。心のケア。

感想

このボランティアを通して知り合えたchild fund Japanの方、同じ班の仲間、現地の人たちとの繋がりに感謝しています。

謝辞

このボランティアに参加する機会を与えてくださり、支えてくださった高橋一先生をはじめ、child fund Japanの小林さん、船戸さん、滝藤さん、福田さん、引率をしてくださった永幡先生、広報部のみなさん。この礼拝で発表の場を与えてくださった皆さん。多くの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

震災にあった地域が少しでも早く復興することを願っています。

ボランティアであっても

プロフェッショナルであれ！